共立女子短期大学看護学科紀要　第７号（2012）

精神科病棟において看護師が実践するレクリエーションに関する研究の動向

石川幸代・原田瞳

The tendency of the research about recreations that the nurses who work in psychiatry ward

Yukiyo ISHIKAWA, Hitomi HARADA

The purpose of this research is to make clear effectives and problems that the nurses who work in psychiatry ward have recreation when they support the psychiatry handicap person through the literatures.

The result of this investigate is as follows.

1) The recreations that the psychiatry nurses work in "the vision of nursing" "care of patients" "the relationship between patients and nurses" are effective.
2) The problems of recreations that the psychiatry nurses work were categorized four parts.
3) The problems of recreations that the psychiatry nurses work are linked the nursing plan, the cooperation with the specialist, and the study and training.

Key words：精神科病棟，看護，看護職，レクリエーション，精神障がい者

Ⅰ．はじめに

精神科リハビリテーションにおいて，そのリハビリテーションを促進するために，さまざまな治療技法が，さまざまな職種によって用いられるが，その活動に焦点を当てた治療技法の代表的なものとしては，作業療法，レクリエーション療法，芸術療法，遊戯療法などが挙げられる。

欧米においても日本においても，精神科病院では，レクリエーション活動がこれまでも，そして現在も広く行われている。米国では，1960年代後半から Therapeutic Recreation（TR）という名で統一されるようになった[1)]。

わが国において，精神科で行われるレクリエーション療法は，呉秀三が遣散療法と名づけて気晴らし的な活動を用いた。戦後は，生活指導，レクリエーション療法，作業療法を包含した生活療法が提唱され，看護師が多くの役割を担い，積極的に取り組まれてきた。このように，生活療法においては，軽スポーツ，音楽，絵画，ゲームクラブ活動など多岐にわたる種目が，生活指導の一環として広く用いられてきたが[2)]，1970年代に入り，生活療法の治療の側面が弱体化し，管理的，画一的となり，さらに使役的側面が指摘され批判を受けた[3)]。さらに，1965年に作業療法士が資格化され，1974年に精神科作業療法が診療報酬化されてからは，作業療法の種目として，レクリエーション療法が行われる傾向にある。

しかしながら，精神科看護の領域において，看護師が生活療法の一環としてレクリエーションを用いて，患者ケアに当たっていることは現在も精神科の病棟において継続し見受けられる光景であるのは事実である。そして生活を支援する看護師が行うレクリエーションにおいて，多くの患者がリハビリテーションの効果を得ているのも目にする光景である。

このような現状の中，精神科病棟において看護師が実践するレクリエーションは，患者ケアにどのような効果をもたらし，どのような課題があるのかということを検討し，作業療法の種目とは異なる形で行われるレクリエーションの意義についても検討したい。

今回は，これまでに看護師によって実践されてきたレクリエーションに関する研究について文献検討を行い，文献を通じて，精神科病棟において看護師が実践するレクリエーションは，どのような効果をもたらし，どのような課題があるのかということを検討することとする。

Ⅱ．研究の目的

本研究は，精神科病棟において看護師が実践するレクリエーションについて，その効果と課題について抽出し，看護師が精神障がい者の支援において，レクリエーションをどのように活用できるのかということについて，文献を通じて明らかにすることを目的とする。

Ⅲ．研究方法

１．研究期間

2011年６～９月。

２．対象文献

医学中央雑誌 web 版にて，1983年から2011年12月までの間に，看護師が精神科病棟で行うレクリエーションについて，文献検索を行った。キーワードは，「精神科病棟」「レクリエーション」「看護師」とし検索を行った。原著論文のみを対象文献とした。

３．分析方法

各々の文献が提示する精神科病棟において看護師が行うレクリエーションの効果と課題について抽出し，看護師が精神障がい者の支援において，レクリエーションをどのように活用できるのかを分析，考察した。

Ⅳ．結　　果

医学中央雑誌 web 版にて，1983年から2011年９月までの間に，看護師が精神科病棟で行うレクリエーションについて，文献検索を行った結果，「精神科病棟」「レクリエーション」「看護師」のキーワードで検索された文献は16件で，対象となった原著論文は12文献であった。以下の表１のとおりである。

13の文献の内容については，１．レクリエーションによる患者の変化に関するもの，２．レクリエーションに対する看護師の意識・認識に関するもの，３．レクリエーションの意義・効果に関するもの，４．レクリエーションにおける課題に関するもの，５．レクリエーションにおけるかかわりに関するもの，に分類された（表２）。

各々の文献が提示する精神科病棟において看護師が行うレクリエーションの効果と課題について抽出すると，表３，４のようになった。

精神科病棟において看護師が実践するレクリエーションの効果については，『１．看護の視点に関するもの』，『２．患者ケアに関するもの』，『３．患者―看護師関係に関するもの』に分類された。『１．看護の視点に関するもの』が示す看護師が実践するレクリエーションの効果は，「患者の状態の客観的な評価」，「健康的な部分へのフォーカス」，「個別的かつ集団的な観察の場」などであった。『２．患者ケアに関するもの』が示す看護師が実践するレクリエーションの効果は，「生活のリズムの改善」，「体力の回復」，「感情表出の場」，「コミュニケーションの活発化」，「レクリエーション療法への反応」，「行動の変化」，「精神的安定」，「集合の自

発性」,「人との触れ合いの場」,「楽しみの実感(楽しいという感覚を得ること)」,「対人交流の増加」であった。『3．患者―看護師関係に関するもの』が示す看護師が実践するレクリエーションの効果は,「信頼関係構築の促進」であった。

また，精神科病棟において看護師が実践するレクリエーションの課題については『1．レクリエーションのあり方に関するもの』,『2．レクリエーションプログラムに関するもの』,『3．看護師の認識に関するもの』,『4．レクリエーションを実施する看護師への支援に関するもの』に分類された。『1．レクリエーションのあり方に関するもの』が提示する課題は,「レクリエーション療法と看護計画の連動」,「レクリエーションの日常化」であった。『2．レクリエーションプログラムに関するもの』が提示する課題は,「所属，承認，自尊心の欲求を充足させるようなレクリエーションプログラム」,「治療効果の高いレクリエーションプログラムの作成」,「生きがいが求められるレクリエーションの方法」,「離床を導くために有効なレクリエーション」であった。『3．看護師の認識に関するもの』が提示する課題は,「看護師のレクリエーション運営への主体性」,「レクリエーション療法の必要性の認識」,「患者の能力を発揮する場としてのレクリエーションの認識」,「治療的効果へのこだわりの軽減」であった。『4．レクリエーションを実施する看護師への支援に関するもの』が提示する課題は,「レクリエーション運営スタッフの精神的の軽減」,「レクリエーション療法の研修体制の構築」であった。

V．考　　察

1．看護師が実践するレクリエーションの効果について

精神科病棟において看護師が実践するレクリエーションの効果については，3つに分類されたが,『看護の視点に関するもの』は，どれも精神科看護領域における非常に重要な看護の視点であり，それらに関して効果を得ていることは，看護師が実践するレクリエーションが看護そのものに活用できるということができる。

また,『患者ケアに関するもの』について報告している文献は多く，精神科看護の領域において，看護師が患者ケアにおいて，レクリエーションを用いていることは一定の効果を得ているということが云える。また効果の内容として挙げられている項目については，どれも精神科看護においては重要かつ不可欠なケアであり，レクリエーションを通してこれらの効果を得られるということは，患者ケアにおいて看護師が実践するレクリエーションが有効であると考える。

『患者―看護師関係に関するもの』で挙げられている信頼関係構築の促進については，複数の文献が触れている。精神障がい者は，コミュニケーションに障害を有している場合が多く，他者との信頼関係の構築に支障をきたすこともしばしばであるが，レクリエーションという「楽しみ」の場を共有することを介して，患者と看護師の距離が縮まり信頼関係の構築が進むことは，患者ケアを円滑かつ効果的に実施する上でも精神科看護においては必要な要素である。

したがって，3つに分類された内容は，どれも精神科看護における患者ケアには重要かつ不可欠な内容で，精神科病棟において看護師が実践するレクリエーションは，患者ケアに有用な効果をもたらしているということが云える。

2．看護師が実践するレクリエーションの課題について

精神科病棟において看護師が実践するレクリエーションの課題については，4つに分類されたが,『レクリエーションのあり方に関するもの』にある「看護計画との連動」は，看護師がレクリエーションの有用性を十分に認識し，看護職としてレクリエーションを実践するために明確にしておく必要があるのではないかと考える。

『レクリエーションプログラムに関するもの』としては，治療効果を焦点化した内容のプログラムの作成が課題として示されているが，治療効果の焦点化を進めていくならば，看護の視点のみでなく，他職種，特に作業療法士との連携をとり，プログラムの内容を深めていくことが有用な方法の一つではないかと考えられる。

『看護師の認識に関するもの』としては，レクリエーションの必要性を十分に認識していなければ，看護師が主体性を持ってレクリエーションを運営していくことは難しいと考えられる。そこで，もう一つの課題として示されている『レクリエーションを実施する看護師への支援に関するもの』に示されているようなレクリエーションの必要性や運営方法などを習得できる研修等の整備が課題になっていくのではないかと考える。

以上の点から，看護師がレクリエーション有用性を十分に認識し，主体性を持って実践していくために，看護計画との連動，他職種との連携，研修等の整備が，看護師が実践するレクリエーションの課題と考えられる。

Ⅵ．まとめ

以上から，精神科病棟において看護師が実践するレクリエーションは，どのような効果をもたらし，どのような課題があるのかということは以下のとおりである。

1．精神科病棟において看護師が実践するレクリエーションは，『看護の視点に関するもの』，『患者ケアに関するもの』，『患者―看護師関係に関するもの』に有用な効果をもたらす。

2．精神科病棟において看護師が実践するレクリエーションの課題については『レクリエーションのあり方に関するもの』，『レクリエーションプログラムに関するもの』，『看護師の認識に関するもの』，『レクリエーションを実施する看護師への支援に関するもの』に分類された。

3．２の内容から，看護師がレクリエーション有用性を十分に認識し，主体性を持って実践していくために，看護計画との連動，他職種との連携，研修等の整備が，看護師が実践するレクリエーションの課題と考えられる。

Ⅶ．研究の限界と今後の課題

本研究の対象文献は非常に少なく，また2009年以降の文献はないため，今後も研究を重ねていく必要があると考える。2009年以降の精神科病棟におけるレクリエーションを扱った研究は，看護学生が実習において行ったレクリエーションを扱った研究が比較的多いことから，その分野に関しても研究を進めていく必要があると考える。

引用・参考文献

1）萱間真美　野田文隆編集：精神看護学，P 255-257，南江堂，2010.

2）坂田三充編集：精神看護エクスペール５　精神科リハビリテーション看護，P 195-196，中山書店，2004.

3）出口禎子編集：情緒発達と看護の基本，P 131，メディカ出版，2009.

4）原克枝，雨宮浩子，塚田昌子他：精神科におけるレクリエーション療法の検討，日本看護学会集録第25回成人看護Ⅱ，P 119-121，1994

5）高橋尚子，阿川啓子，日下和美他：総合病院精神科病棟におけるレクリエーション療法の現状と課題，日本精神科看護学会誌，第41巻１号，P 193-195，1998.

6）松浦千香子：看護婦さん，今日はなにすると―病棟単にレクリエーションの取り組み，日本精神科看護学会誌，第42巻１号，P 407-409，1999.

7）作島小百合，井戸崎さつき，内園綾乃他：レクリェーション活動に対する看護者の認識の変化，日本精神科看護学会誌，第43巻１号，P 127-129，2000.

8）木原和子，丹波久子，須藤清江他：レクリ

エーション活動をきっかけとした患者，看護者の変化に関する検討，精神科看護，第28巻１号，P 47－50，2001.
9）池田依留，徳田英司：病棟レクリエーションプログラムに対するスタッフの意識調査，日本精神科看護学会誌，第44巻２号，P 138-142，2001.
10）河井英彦，高松一樹，渡辺修二他：患者様の自発性，自己決定を支えるかかわり，精神保健，第47号，P 77，2002.
11）斎藤由香：基本的信頼関係を築くことが難しい患者へのかかわり，日本精神科看護学会，第49巻２号，P 138-142，2006.
12）橋本千明，岸聖子，原知子他：精神科病棟のレクリエーション活動に対するかかわりの変化，日本看護学会論文集，第38号，P 196-198，2007.
13）大山由香：対象者をとらえたレクリエーション，日本精神科看護学会誌，第50巻２号，P 670-674，2007.
14）河野あゆみ，松田光信：精神科リハビリテーションのレクリエーション療法の再生と評価関する研究日本精神保健看護学会誌，第17巻１号，P 24-33，2008.
15）馬場眞由美：閉鎖病棟における病棟レクリエーション活動の効果，日本精神科看護学会，第51巻第３号，P 103-106，2008.

表１．対象文献一覧

	タイトル	著者（筆頭）	掲載雑誌	発表年月
1	精神科におけるレクリエーション療法の検討	原克枝	日本看護学会集録第 25 回 成人看護Ⅱ　P119-121	1994. 10
2	総合病院精神科病棟におけるレクリエーション療法の現状と課題	高橋尚子	日本精神科看護学会誌 第 41 巻 1 号, P193-195	1998. 5
3	看護婦さん、今日は何すると― 病棟単にレクリエーションの取り組み	松浦千香子	日本精神科看護学会誌 第 42 巻 1 号, P407-409	1999. 5
4	レクリェーション活動に対する看護者の認識の変化	作島小百合	日本精神科看護学会誌 第 43 巻 1 号, P127-129	2000. 5
5	レクリエーション活動をきっかけとした患者、看護者の変化に関する検討	木原和子	精神科看護 第 28 巻 1 号, P47－50	2001. 1
6	病棟レクリエーションプログラムに対するスタッフの意識調査	池田依留	日本精神科看護学会誌 第 44 巻 2 号, P138-142	2001. 12
7	患者様の自発性、自己決定を支えるかかわり	河井英彦	精神保健 第 47 号, P77	2002. 5
8	基本的信頼関係を築くことが難しい患者へのかかわり	斎藤由香	日本精神科看護学会 第 49 巻 2 号, P138－142	2006. 12
9	精神科病棟のレクリエーション活動に対するかかわりの変化	橋本千明	日本看護学会論文集 第 38 号, P 196-198	2007. 12
10	対象者をとらえたレクリエーション	大山由香	日本精神科看護学会誌 第 50 巻 2 号, P 670-674	2007. 12
11	精神科リハビリテーションのレクリエーション療法の再生と評価に関する研究	河野あゆみ	日本精神保健看護学会誌 第 17 巻 1 号, P 24-33	2008. 5
12	閉鎖病棟における病棟レクリエーション活動の効果	馬場眞由美	日本精神科看護学会 第 51 巻第 3 号, P103-106	2008. 12

表２．内容の分類

1	レクリエーションによる患者の変化に関するもの	2 件
2	レクリエーションに対する看護師の意識・認識に関するもの	4 件
3	レクリエーションの意義・効果に関するもの	1 件
4	レクリエーションにおける課題に関するもの	2 件
5	レクリエーションにおけるかかわりに関するもの	3 件

表3．看護師が実践するレクリエーションの効果

1．看護の視点に関するもの
・患者の状態の客観的な評価 ・健康的な部分へのフォーカス ・個別的かつ集団的な観察の場
2．患者ケアに関するもの
・生活のリズムの改善 ・体力の回復 ・感情表出の場 ・コミュニケーションの活発化 ・レクリエーション療法への反応 ・行動の変化 ・精神的安定 ・集合の自発性 ・人との触れ合いの場 ・楽しみの実感（楽しいという感覚を得ること） ・対人交流の増加
3．患者-看護師関係に関するもの
・信頼関係構築の促進

表4．看護師が実践するレクリエーションの課題

1．レクリエーションのあり方に関するもの
・レクリエーション療法と看護計画の連動 ・レクリエーションの日常化
2．レクリエーションプログラムに関するもの
・所属、承認、自尊心の欲求を充足させるようなレクリエーションプログラム ・治療効果の高いレクリエーションプログラムの作成 ・「生きがい」が求められるレクリエーションの方法 ・離床を導くために有効なレクリエーション
3．看護師の認識に関するもの
・看護師のレクリエーション運営への主体性 ・レクリエーション療法の必要性の認識 ・患者の能力を発揮する場としてのレクリエーションの認識 ・治療的効果へのこだわりの軽減
4．レクリエーションを実施する看護師への支援に関するもの
・レクリエーション運営スタッフの精神的の軽減 ・レクリエーション療法の研修体制の構築